

各地幼稚

園便り

名古屋市立第一幼稚園

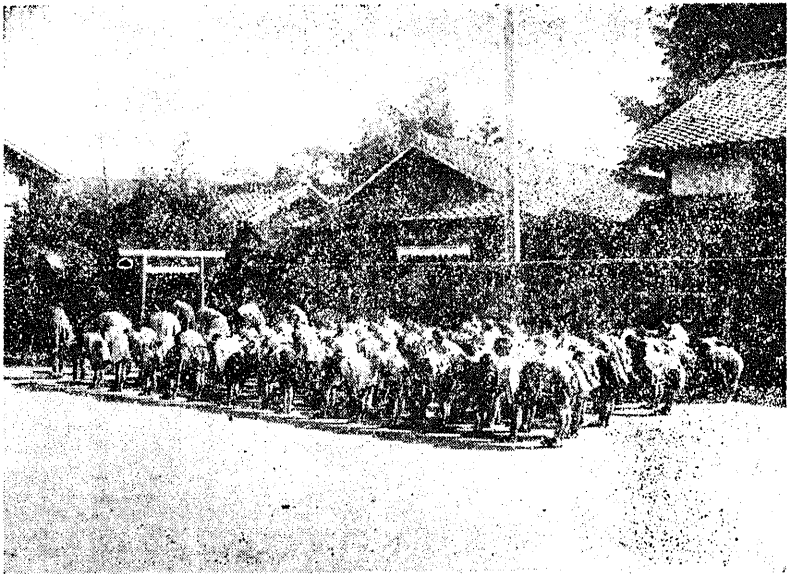
大 島 せ き

一、沿革の概要

明治二十四年三月に師範學校幼稚部が廢止せられた時、當時の師範學校長であつた中川郊次郎氏は之を獨立した別箇の施設として更生發展させることを發起せられた所、幸にして市内有識者多數の協力を得て同二十五年三月中區南久屋町八八番戸に私立名古屋幼稚園を創設せられました。之は當時に於ては、本市に於ける唯一の幼兒教育機關でありました。

又之が本園の誕生でもありました。明治三十二年八月に同園は現在の名古屋市立第一高等女學校の前身校たる愛知縣名古屋高等女學校の附屬幼稚園となり同三十四年九月東區久屋町一ノ四に園舎を新築して移轉しました。之が現在の本園の位置であり、又園舎であります。

幼稚園令制定の翌年即ち大正二年獨立して名古屋市立第一幼稚園となつたのでありますが、此の間、本校の校名改稱に伴つて、



朝のお詣り

愛知縣名古屋高等女學校附屬幼稚園から市立名古屋高等女學校附屬幼稚園に、更に市立名古屋高等女學校附屬幼稚園から名古屋市立第一高等女學校附屬幼稚園となり、遂に現在の名古屋市立第一幼稚園となつたのであります。

一、敷地、園舎

園地面積 二〇一四、七五平方米

遊園面積 一二二五、九七

園舎面積 四九三、二二

昭和十三年度に木造平家瓦葺の改築案も決定し、起債迄も済んで居りますが敷地擴張の關係で着手がおくれ、夫に今日の如き時局柄でもあつて、只今の所何時着工せられるか見透しがつかぬ状態にあります。

一、園児數 約二〇〇名

組數 六組

年長組四、〔二年保育二〕

年少組三、〔内三年保育を含む〕

一、職員數 園長一

保母六

使丁二

一、保育科 月額 參圓也

保育後援會、本園には保育後援の目的を以て設置せられた双葉會といふ在園兒父兄の團體があつて、月額金五拾錢の會費を醸出し、公費の不足分或は特別の施設の費用に充當して居り

ます。誠に有難い會であります。

一、保育の實際(行事教育の一端)

此の機會には所定の保育課程には觸れず、本園で特に力を入れてゐる行事教育の中、毎日の行事の中で殊に朝と晝とお歸りとの三點について記すことに致します。

朝會、鈴を合圖に職員園兒一同は運動場の埤地に奉祀してある神社(皇大神宮、熱田神宮、氏神社の御三神を祭る)の社前に整列、朝の挨拶を済まして後、二拜二拍手、一拜の參拜を致します、參拜に次いで園長の訓話、訓話が終ると幼兒體操―鳩ポッポの體操と呼んであります―をして、引續いて全園兒二列に隊伍を組んで約十分間力強く正常歩行進を致します。初めの中は運動場を一周か二周するに止め、徐々に距離を増して参ります。

行進が終つて初めて各組共、その日の所定の保育に移ります。

食事教育、朝の神社參拜に次いで本園で力を入れてゐるものにお晝の食事教育があります。食前の手洗、食後の含嗽は勿論、特に食事中は正しい姿勢で絶対に無言で、よく噛んで行儀よく感謝して頂く指導に専念して居ります。一般に云はれてゐる「愉快に談笑し乍ら」食事することは大人の考へた理想であつて、幼い子供達には不向かと思ひます。私は子供達に食物に感謝する精神を養ふために嚴肅主義を實行してゐます。その習慣もつき大體出来る様になる二學期の半頃からは自然に出る小聲のたのしい語り合ひは見逃す程度にしてゐますが、決して語り合つてよいとは申しません。つまり感謝して食物を頂くといふ精神は「黙つてよく噛んで行儀よく」頂くことによつて養はれるものと信じてゐます。

お歸り、お歸りの集合は遊戯室でいたします。室の正面には國旗を掲げ、室に入る時口を緘じて、出る迄、歌ふ時以外は絶対に口を開かぬことにして居ります。各組毎に二列縦隊に國旗に向つて正坐します。背骨を伸ばして姿勢を正し、兩足先を淺く組み合せて兩手は自然に軽く膝の上におき大體靜坐の姿勢をとらせませす。園長を中心にして保姆は各自の組の前に園兒と向ひ合つて坐ります。當番保姆の指揮で國旗を通して宮城遙拜、次に黙想五分、今日一日の反省事項の訓話、最後にお歸りの歌で終るのであります。近い中に宮城の御寫眞を掲げたいと思つて居ります。坐ることの効果は實施してみても驚いてゐる位であります。

以上は一日の行事の中で三つの節を摘記したのであります。行事生活を通じて躰けて行くことは大切であり効果的であると信じて居ります。

京城愛國幼稚園

小島 紀子

一、組數	六組	内組……四組	外組……二組	各組共言語を解する鮮兒平均 (七八名あり。外兒も含む)
		鮮組……二組		
	年長	内兒……一三五名	鮮兒……八二名	
	年少	鮮兒……二四一名	支那兒……二六名	
		トルコ兒……一名		
一、幼兒數				計二八七名



お舟あそび